

# 令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

報告日 令和7年11月21日

P T A名		静岡県立袋井特別支援学校 磐田見付分校 P T A				
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input type="checkbox"/> 小学部	<input type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	51				

## 1. 使用状況

寄贈物品名	和太鼓
使用学年及び人数	高等部1～3年、計51人
使用頻度	全学年、主に1学期(週1時間)
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の器楽の授業を中心に演奏に取り組んだ。</li> <li>・職員間で和太鼓の取り扱い方について共通理解を図っている。生徒に正しい組み立て方や運び方などの指導を行っている。</li> <li>・2学年は締め太鼓と長胴太鼓を用いて「リズム打ち」の単元に活用した。3学年は、「創作リズム」の単元で活用し、グループごとにリズム曲を創作して発表し合った。1学年は、3学期に和太鼓の扱い方と簡単なリズム演奏の学習を計画している。</li> <li>・各学年、単元の終わりには校内発表会を計画し、グループごとにリズムを創作したり、掛け声や身体の動かし方を工夫しながら学習に取り組んでいる。</li> </ul>
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和太鼓の大きな音が教室に響くと、初めは大きな音は苦手で耳をふさぐ生徒もいたが、授業で繰り返し楽器に触れていくうちに、自ら和太鼓をたたき笑顔になる場面があった。</li> <li>・太鼓の革や木の性質などについて、実物に触れる感覚を楽しみながら学んだことで、和太鼓への関心や練習に対する意欲が深まっている。</li> <li>・地域の祭典で和太鼓に親しんでいる生徒が演奏を披露すると、聴いている生徒が興味を示し、教えてもらいながら一緒に笑顔で取り組むなど、興味関心を広げている様子がみられた。</li> <li>・身体全体を使い、力いっぱい演奏できることから、生徒からは「ストレス発散にもなって、楽しい。」「もっとかっこよくなるような動きもつけてやってみたいです。」などの発言があり、心身の安定や演奏や身体表現に対する関心の高まりがみられる。</li> </ul>
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続し、全学年の器楽の授業で和太鼓の学習に取り組んでいく。</li> <li>・楽器の保管方法やメンテナンスについて、管理しやすい方法を共通理解していく必要がある。</li> </ul>
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和太鼓は、幅広い年代に親しまれている楽器であることから、今後も和太鼓の演奏に継続的に取り組みたい。</li> <li>・今後は、地域との交流への活用も視野に入れていく。</li> </ul>

## 2. 活用の様子

